

厚生科学研究
(子ども家庭総合研究事業)

リプロダクティブ・ヘルス
(性と生殖に関する健康) から見た
子宮内膜症等の予防、診断、治療に関する研究

平成12年度研究報告書

武
谷
雄
二

平成13年3月

主任研究者 武 谷 雄 二

リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)から見た子宮内膜症等の
予防、診断、治療に関する研究

目 次

I. 総括研究報告書

リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)から見た子宮内膜症等の
予防、診断、治療に関する研究

東京大学医学部産科婦人科 教授 武谷雄二
..... 505

II. 分担研究報告書

1. 勤労女性の就労を妨げる諸因子ならびに月経困難症等の勤労女性の就
労に及ぼす影響

東京大学医学部産科婦人科 教授 堤 治
鳥取大学医学部産科婦人科 教授 寺川直樹
近畿大学医学部産科婦人科 教授 星合 昊
..... 507

(資料) 女性の健康に関する疫学調査のアンケート調査用紙
..... 528

2. 月経困難症等が勤労女性の就労に与える社会経済学的影響

群馬大学医学部保健学科疫学医学統計学 助教授 林 邦彦
東京大学大学院医学研究科保健経済学 教授 小林廉毅
..... 532

3. 子宮内膜症性疼痛の長期予後と管理法に関する研究

近畿大学医学部産科婦人科 教授 星合 昊
..... 538

1. 総括研究報告書

リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）から見た子宮内膜症等の予防、診断、治療に関する研究

東京大学医学部産科婦人科 教授 武谷雄二

子宮内膜症等の月経に関連する疾患において疼痛をはじめとする随伴症状は勤労女性の就労に種々の支障をきたしている。特に子宮内膜症による月経随伴症状は慢性化しやすく長期的な管理が必要である。なかでも子宮内膜症は診療を受けている患者のみでも本邦で12万人以上にのぼる。そこで、本研究は社会経済学的側面より子宮内膜症等の実状を把握し、それに対する医学的介入の効果および長期的管理指針の開発を目的として以下の課題を取り上げた。(1) 勤労女性の就労を妨げる諸因子の分析ならびに特に月経困難症の勤労女性の就労に及ぼす影響の実態を解明すること。(2) 月経困難症を訴える患者における治療様式と就労の改善度との関連を解析し有効な管理指針を検討する。(3) 子宮内膜症患者において月経期またはこれ以外の疼痛が就労状況等の生活の質(QOL)におよぼす影響を疾患の進行度との関連より多角的に解析し、疼痛対策を含めた総合的、長期的管理の方法を創案する。以上、3点のうち特に(1)の実態調査は重要であり、医療経済学的側面よりも十分な検討を加えた。

(1)は、本研究の根幹をなすものであるため、主たる分担研究者である堤治に他の分担研究者も加えて、内容、方法、解析ならびに解釈を吟味して施行した。20歳～49歳までの女性人口を想定母集団とし、無作為抽出により10,000人を抽出し、アンケート調査票を郵送した。計4,230名から記入された調査票が返送され(回答率42.3%)、以下の解析に使用した。解析は単純集計と年齢層による層別化により行った。月経痛をある程度生理的な現象と考えれば、67.3%、すなわち一般女性の3人に2人は、月経痛が社会生活に影響を与えることはないと考えられた。一方、鎮痛剤を飲むと日常生活が普通に行える程度の月経痛があるものは26.8%であり、鎮痛剤服用にも関わらず日常生活に支障をきたしているものは6%存在した。また、2%の女性は月経時に寝たきりのような状態になっていることがわかった。すなわち、月経痛に何らかの医学的介入を必要としている女性は全体の約3分の1であり、月経痛が医学的、社会的に重要な問題であることが再認識された。

さらに、月経痛を左右する重要な因子と考えられる経産回数と年齢で2重に層別化して解析した結果、同一の経産回数のなかでも年齢とともに月経痛が減少していく傾向が認められた。また、同じ年齢層の中で見ると、経産回数の増加とともに月経痛が減少する傾向が認められた。すなわち、若年齢かつ未産な

ものほど月経困難を強く訴えており、勤労女性の社会的 QOL を低下させる可能性が示唆された。

月経痛が就労に与える影響として、月経痛のため半年のうちにも一日でも仕事を減らしたり、休んだりする女性が 27.3%存在することがわかった。また、月経中の自分の状態について周囲から理解されていないと答えたものは、全体の 4 割を超えており、月経に関する社会的啓蒙の必要性も伺われた。

次に、分担研究者林邦彦ならびに研究協力者小林廉毅を中心として、上記の回収された調査票をもとに月経困難症のもたらす労働損失の推計を行った。この結果、平成 11 年の人口全体で推計すると、6 カ月間での労働損失額は、合計で 1,890 億円と推計された。月経困難症のもたらす経済学的損失には、この他に医療費も重要な項目であるが、この件については現在通院患者を対象とした調査を施行中である。

(3) の長期的管理法を検討するという課題に対し、今年度は子宮内膜症における疼痛に対する治療後の長期予後を調査した。平成 6 年に腹腔鏡または開腹手術により子宮内膜症の確定診断をされた 606 症例(17 施設より登録)の内、疼痛症状を伴ういわゆる有痛症例 410 例の予後を後方視的に調査した。全体において疼痛症状の再発率は 46.8%で、うち 38.5%は治療終了後 3 ヶ月以内に再発あり、逆に、2 年以上経てからの再発例も 15.6%存在した。次に、有痛症例における臨床進行期、治療法と再発率との関連性を解析した。臨床進行期別、かつ、手術療法ならびに薬物療法の有無により再発率の比較検討を行ったが 1 期症例でやや再発率が低い傾向が認められた他には明らかな差を示す因子は見出せなかった。子宮内膜症に伴う疼痛は種々の治療に抵抗性のものが約半数を占めているのが現状であり、長期的管理法の創案のためには前方視的な研究を含めた検討が今後必要であることが明らかとなった。

尚、(2) に関しては、現在、アンケート調査等が進行中であり、今年度の結果とともに次年度に解析結果と結論が出る予定である。全体として、計画は順調に進行しており、リサーチクエスチョンに対し明確な回答を与えつつあると考える。

平成 12 年度厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）から見た子宮内膜症等の
予防、診断、治療に関する研究

分担研究報告書

勤労女性の就労を妨げる諸因子ならびに月経困難症等の勤労女性の就労に
及ぼす影響

分担研究者	東京大学医学部産科婦人科	教授	堤 治
	鳥取大学医学部産科婦人科	教授	寺川直樹
研究協力者	近畿大学医学部産科婦人科	教授	星合 昊
	東京大学医学部産科婦人科	助手	百枝幹雄
	東京大学医学部産科婦人科	助手	大須賀穰
	鳥取大学医学部産科婦人科	講師	原田 省
	近畿大学医学部産科婦人科	講師	小畑孝四郎

研究要旨

勤労女性の増加しつつある昨今において、月経困難症等の勤労女性の就労に
及ぼす影響の実態を把握することは急務である。本研究では、20 歳～49 歳まで
の女性人口を想定母集団とし、無作為抽出によるアンケート調査を郵送方式に
より行った。10,000 人に調査票を郵送した結果、計 4,230 名から記入された調
査票が返送された（回答率 42.3%）。回答は単純集計するとともに年齢層により
層別化し解析を行った。主たる知見を以下にまとめる。

月経痛に関する回答では、月経痛がほとんどない（重症度 0）は 21.4%、月
経痛を感じるものの日常生活は普通に行える（重症度 1）は 45.9%で、月経痛
をある程度生理的な現象と考えれば、合計 67.3%、すなわち一般女性の 3 人に
2 人は、月経痛が社会生活に影響を与えることはないと思なすことができた。一
方、鎮痛剤を飲むと日常生活が普通に行える（重症度 2）は 26.8%であった。
鎮痛剤服用にも関わらず日常生活に支障をきたしているものは、6%存在し（重
症度 3,4）、その 3 分の 1 は、月経時に寝たきりのような状態（重症度 4）にな
っていることがわかった。重症度が 2 以上のものは、何らかの医学的介入を必
要としており、そのような女性が全体の約 3 分の 1 に相当することは注目に値
する。そこで、月経痛を左右する重要な因子と考えられる経産回数と年齢で 2
重に層別化して解析した結果、同一の経産回数のなかでも年齢とともに月経痛
が減少していく傾向が認められた。また、同じ年齢層の中で見ると、経産回数
の増加とともに月経痛が減少する傾向が認められた。

月経痛が就労に与える影響として、月経痛のため半年のうち一日でも仕事

を減らしたり、休んだりする女性が27.3%存在することがわかった。このうち、約半数には月経痛のため休んだ日があり、休みを必要とした女性のうち約4分の1は月に1日以上休んでいると推定された。

月経中の自分の状態について周囲から理解されていないと答えたものは、全体の4割を超えており、月経に関する社会的啓蒙の必要性も伺われた。

目的

勤労女性の増加しつつある昨今において、女性特有の疾病が就労に及ぼす影響は医学的、社会的見地から早急な実態調査と対策が必要となっている。特に、月経は女性に特有の現象で、これに関連する疾病ならびに月経に随伴する諸症状は女性のQOLを脅かすとともに就労を妨げる主要な要因となっている。なかでも、子宮内膜症は頻度が高く難治性の疾患で現在本邦で診療を受けている患者は12万人以上にのぼる。これらに起因する疼痛などが就労に及ぼす影響は社会経済学的に相当大きな損失をもたらしていると考えられる。また、子宮内膜症以外の月経前緊張症、排卵期の疼痛、出血、月経困難症なども月経周期を有する女性に特有の問題で女性の就労を制約する諸因子となっていると推測される。急速な女性の社会進出が進む現在において、これらの実態の把握は十分になされておらず、その対応は遅れているといわざるを得ない。よって、本分担研究はこれら月経に関連する疾患、および月経関連症状の本邦における実態を把握することを目的とした。医療機関を受診していない女性の月経困難症等も含め、広く本邦における一般女性の実態を把握するため、一般女性を対象とした無作為抽出によるアンケート調査を郵送により施行した。

対象と方法

わが国の20歳～49歳までの女性人口を想定母集団とした。都市規模別に重み付けし関東地域から100地点を無作為抽出した。各地点から20歳～49歳の女性100人を、住民台帳から無作為に抽出した。なお、地点・対象者の抽出および住民台帳の閲覧は、社団法人新情報サービスが行った。

抽出された10,000人の対象者に、2000年10月に調査票（資料参照）を郵送した。記入された調査票は、事務局（東京大学医学部産科婦人科）まで返送され、計4,230名から回答を得ることができた（回答率42.3%）。また、未回答者のうち62人については、抽出時から郵送時までの転居などにより宛先不明で未着であった。各、年齢層ごとの回答率を表1に示した。20歳代の若年層は、他の年齢層に比べやや低い回答率であった。

研究成績

A. 単純集計からの解析（表2～26）

本項目では、単純集計からの知見を記載する。これらは、現代における本邦の一般女性の月経、月経困難症ならびにその関連事項を評価しており、他に類を見ない貴重なデータと言える。

1. 年齢分布、職業分布（表2、3）

表2は対象の年齢分布である。20才より5才ごとに分布を示している。20-24才が11.7%とやや少なくなっているが、その他は17-18%と均等な分布をしている。

表3に職業分布を示す。専業主婦が32%と最も多く、フルタイムの事務職が16.2%とつぎに多くなっている。一方、管理職、農林水産漁業専門者は1%以下であった。

2. 初経年齢（表4）

初経年齢の最頻値は12歳の32.5%、次いで13歳の24.6%となっている。初経年齢が9歳以下、16歳以上は各々ほぼ1%以下で、病的な状態が含まれていると考えられる。

3. 経産回数（表5）

未産婦は全体の39.9%を占めている。経産婦の中では2回経産が30.2%と最も多く、1回経産が16.3%、3回経産が12.0%と続いている。

4. 月経の状況（表6～9）

表6に月経の順・不順の状況を示す。順調と答えたものは、70.5%であった。一方、不順と答えたものは24.5%で、4人に1人の割で月経が不順であると感じていることがわかった。現在、月経がないと答えたものが5.1%存在するが、これは、妊娠や授乳中のものが含まれているためであると考えられる。

表7に月経が順調と答えた2963例を対象とした平均的周期の分布を示す。28日型のものが最も多く37.5%で、ついで、30日型の25.4%となっている。全体の90%は、25日から33日周期の間に分布しており、この範囲のものを暫定的に正常と考えることができる。逆に、24日より短いもの、34日より長いものには卵巣機能不全などの病的異常が伴っている可能性がある。

表8に月経の持続日数の分布を示す。5日間から7日間と答えたものが、全体の83.7%をしめた。3日間以下もしくは9日間以上のものは、各々、2.3%、1.9%で、内分泌学的異常や器質的疾患などの異常を伴っているものを含んでいる可能性がある。

表9に月経量を示す。これは、主観的判断に基づくものであり、定量的な客観的評価ではないが、一般女性が各自の月経量をどのように感じているかを知ることができる。正常と答えたものが71%存在する一方、少ないと感じているものが10.6%、多いと感じているものが18.4%で、全体の3分の1弱のものが正常とは異なると感じていた。

5. 月経痛の程度と鎮痛剤の使用（表10～13）

表10に月経痛の程度の分布を示す。月経痛がほとんどないと答えたもの（重症度0）は21.4%にとどまった。45.9%は、月経痛を感じるものの日常生活は普通に行える（重症度1）と答えており、月経痛をある程度生理的な現象と考えれば、なしの21.4%とあわせて、67.3%、すなわち一般女性の3人に2人は、社会生活において月経痛は問題の無いものとみなすことができる。一方、鎮痛剤を飲むと日常生活が普通に行える（重症度2）と答えたものは26.8%であった。鎮痛剤服用にも関わらず日常生活に支障をきたしているものは、6%存在し（重症度3,4）、その3分の1は、月経時に寝たきりのような状態（重症度4）になっていることがわかった。重症度が2以上のものは、何らかの医学的介入を必要としており、そのような女性が全体の約3分の1に相当することは注目に値する。

表11, 12に月経痛のための鎮痛剤の使用状況を示す。月経痛のために鎮痛剤を使用するものは、38.3%と全体の約4割であった。このうち、4分の3は毎回の月経で鎮痛剤を使用していた。使用日数としては、3日間以内のものがほとんどであるが、5日間以上使用しているものも0.9%存在した。

表13に鎮痛剤の種類を示す。処方薬と一般薬とにわけ質問した。87.1%と大半のものは一般薬を使用しており、処方薬を使用しているものは13.9%であった。処方薬は医療機関への受診を必要とすることを考え合わせると、1割以上のものが月経痛もしくは関連の症状で医療機関を受診していることをうかがわせるデータである。

6. 月経痛による就業障害（表14～20）

最近の半年間での月経痛が就労に与えた影響を調べた。この半年間で月経痛のために休んだり仕事を減らしたりしたものは、27.3%であった（表14）。このうち、休んだ日があったものは約半数であった（表15）。すなわち、対象女性のうち1割強の割合で月経痛のために休むことがあることがわかった。表16に休んだ日数の分布を示す。休んだと半年のうち、1日もしくは2日休んだもので約半数をしめた。多いほうでは、月に平均1日以上休むと推定されるものが、約4分の1存在した。

一方、休まないまでも、仕事量を減らした日があったと答えたものは、対象女性のうち2割に達していた（表17）。減らした日数は1日から4日で約半数をしめた（表18）。減らした程度は平均すると普段の2分の1の仕事量であることがわかった（表19）。

月経痛のために、離職や転職をしたものは全体の1.1%であった（表20）。

7. 月経痛による医療機関への受診、診断、治療（表21～24）

月経痛のため医療機関を受診したものは、全体の12.2%であった（表21）。

対象女性の10人に1人強の割合である。これら受診したもののうちで、診断は、機能的なものとされたものが最も多く47.0%と約半数をしめた。器質的な異常としては子宮内膜症が最も多く26.7%で、ついで、子宮筋腫と診断されたものが17.3%となっていた(表22)。

治療としては、薬物療法が多く6割をしめたが、外科的治療を施行されたものが16.3%あった(表23)。治療効果として、良くなったもの、と、変化の無いもの、で約半数ずつで、治療の困難さを反映しているデータとも読み取れる(表24)。

8. 月経痛に対する周囲の理解(表25、26)

月経中の自分の状態についての周囲からの理解に関しては、どちらかといえば理解がないが23.1%、ほとんど理解がないが20.1%で、社会的啓蒙の必要性が伺われた(表25)。

月経中の自分の状態について男性、女性どちらが理解しているかについては、女性のほうが理解があると答えたものは62.3%、どちらも同じと答えたものが34.6%で、男性の理解もかなり広まっていると受け取ることができるが、より一層の理解を男性に求めるような結果となっている(表26)。

B. 年齢による層別化に基づく解析(表27～53)。

1. 職業分布(表27)

年齢ごとの職業分布をみると、20-24歳では、学生などが最も多く36.6%、ついで事務系フルタイムの23.2%であった。25-29歳では、事務系フルタイムと専業主婦がならんで26.6%と最も多く、30-35、36-39歳の群では専業主婦が41.2、44.9%と最も多かった。40-44、45-50歳の群でも専業主婦が最も多かったが、頻度は34.5、34.2%と低下しており、パートタイム職がやや増えている。

2. 初経年齢(表28)

初経年齢は、40歳以上でやや遅くなっているが、39歳以下ではほとんど変化無く、本邦における初経年齢の若年化は少なくともこの30年間はほとんど進行していないと考えられる。

3. 経産回数(表29)

29歳以下では、未産婦が半数以上をしめる。30歳以上では経産婦の方が多く、35歳以上では2回経産婦の頻度が最も高かった。

4. 月経の状況(表30～33)

月経周期が順調と答えたものは35歳から44歳で最も多く約8割、若年になるほど頻度が下がり20-24歳で約6割であった。45歳から50歳の閉経に近いと考えられる年齢層でも約6割であった。これより、20-24歳の若年者では生物学

的に卵巣機能が十分に安定していない状態であるとも解釈できる。平均的周期、月経日数、月経量は年齢による大きな差は見られなかった。

5. 月経痛の程度と鎮痛剤の使用（表34～40）

月経痛に関しては20歳から50歳まで加齢とともに軽減していく傾向が認められた（表34、35）。

そこで、月経痛を左右する重要な因子と考えられる経産回数を年齢に加え2重に層別化して解析した（表36）。その結果、同一の経産回数のなかでも年齢とともに月経痛が減少していく傾向が認められた。また、同じ年齢層の中で見ると、経産回数の増加とともに月経痛が減少する傾向が認められた。

さらに、年齢ごとに月経の順、不順が月経痛と関係しているかを解析した（表37）。年齢が高いほど、月経が順調のものなかでの月経痛の頻度に比べ、月経が不順なものなかでの月経痛の頻度が相対的に多くなる傾向を認めた。

月経痛のための鎮痛剤使用は、20歳台で5割以上であったが、30歳以上では年齢が高くなるとともに減少していた（表38）。

6. 月経痛による就業障害（表41～47）

月経痛のために休んだり、仕事を減らしたりしている頻度は、20歳台では約35%であったが、30歳台では約30%とやや減少していた（表41）。さらに、40-44歳では21%、45-50歳では13%と、月経痛の減少に伴い著明に減少していた。月経困難のために離職や転職を経験したものは、25-29歳で1.1%、35-39歳で1.6%と若干の増加をみとめるものの大きな変化は認めなかった（表47）。

7. 月経痛による医療機関への受診、診断、治療（表48～51）

月経痛のため医療機関へ受診した経験のあるものは25-29歳、30-35歳の群ともに15%ともっとも多かった（表48）。

診断としては、20-29歳では、機能的なものが半数以上をしめていた（表49）。年齢とともに機能的な異常は減少し、器質的な疾患を指摘されるものが増えていく。その中では、子宮内膜症が39歳以下では最も多く、40歳以上は子宮筋腫が最も多くなっている。治療は年齢が高いほど器質的異常が多いためか、外科的治療が増えていた（表50）。治療結果については、各年齢層ごとに一定した傾向は認められなかった（表51）。

8. 月経痛に対する周囲の理解（表52、53）

月経中の自分の状態について周囲は、大変理解がある、どちらかといえば理解がある、を合わせたものは、45-50歳で約50%に比べ、20-24歳では65%と高く、全体として年齢層が若いほど高くなっていた（表52）。一方、周囲の男性と女性のいずれから、より理解されているかの答えは、年齢層による一定の傾向は認められなかった（表53）。

C. 初経年齢と月経の順・不順（表5.4）

初経年齢と月経の順・不順について解析した。層別化されたすべての初経年齢において、順と答えたものが最も多かったが、初経年齢11歳以下の73.5%から16歳以上の57.5%まで初経年齢が遅くなるにつれ、月経周期を順調と答えた頻度が減少した。すなわち、初経年齢のわずかな違いが、青年期以降の卵巣機能に大きく関連している結果と考えられる。言い換えれば、個人の一生の卵巣機能は初経年齢の数年の違いに反映されているとも解釈でき、医学的にも興味深いデータである。

図表

(表1)

	抽出数	回答数	回答率
～24歳	1517	493	32.5
25歳～	1971	722	36.6
30歳～	1759	760	43.2
35歳～	1570	741	47.2
40歳～	1526	734	48.1
45歳～	1657	772	46.6
計	10000	4222	42.2

単純集計 回収例 n=4230

(表2)

問1：現在の年齢 Age

Q1	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
20-24	493	11.7	493	11.7
25-29	722	17.1	1215	28.8
30-35	760	18.0	1975	46.8
35-39	741	17.6	2716	64.3
40-44	734	17.4	3450	81.7
45-49	746	17.7	4196	99.4
50	26	0.6	4222	100.0

Frequency Missing = 8

(表3)

問2：職業 Occupation

Q2	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
Agr, Fore and Fish.	23	0.5	23	0.5
Self employed	138	3.3	161	3.8
Office Work(full-time)	684	16.2	845	20.0
Office Work(part-time)	288	6.8	1133	26.8
Engineer(full-time)	167	4.0	1300	30.8
Engineer(part-time)	331	7.8	1631	38.6
Profession	297	7.0	1928	45.7
Medical	241	5.7	2169	51.4
Manager	30	0.7	2199	52.1
House wife	1383	32.8	3582	84.8
Student or unemployed	273	6.5	3855	91.3
Other	367	8.7	4222	100.0

Frequency Missing = 8

(表4)

問3：初経年齢 Menarche

Q3	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
6	1	0.0	1	0.0
9	6	0.1	7	0.2
10	165	3.9	172	4.1
11	645	15.3	817	19.4
12	1369	32.5	2186	52.0
13	1034	24.6	3220	76.6
14	740	17.6	3960	94.2
15	199	4.7	4159	98.9
16	30	0.7	4189	99.6
17	9	0.2	4198	99.8
18	6	0.1	4204	100.0
19	2	0.0	4206	100.0

Frequency Missing = 24

(表5)

問4：経産回数 Parity

Q4	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
None	1685	39.9	1685	39.9
1	687	16.3	2372	56.1
2	1277	30.2	3649	86.3
3	507	12.0	4156	98.3
4	58	1.4	4214	99.7
5-	12	0.3	4226	100.0

Frequency Missing = 4

(表6)

問5：月経の順・不順

State of Menstruation

Q5	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
Regular	2963	70.5	2963	70.5
Irregular	1029	24.5	3992	94.9
No Mens	213	5.1	4205	100.0

Frequency Missing = 25

(表7)「月経が順調と答えた 2963 例を対象」

問5-1：平均的周期

Menstrual cycle

Q5_1	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
-19	9	0.3	9	0.3
20	18	0.6	27	0.9
21	13	0.5	40	1.4
22	12	0.4	52	1.8
23	33	1.1	85	3.0
24	42	1.5	127	4.4
25	224	7.8	351	12.2
26	147	5.1	498	17.3
27	151	5.2	649	22.6
28	1079	37.5	1728	60.1
29	117	4.1	1845	64.1
30	730	25.4	2575	89.5
31	71	2.5	2646	92.0
32	55	1.9	2701	93.9
33	33	1.1	2734	95.0
34	11	0.4	2745	95.4
35	80	2.8	2825	98.2
36	4	0.1	2829	98.3
37	4	0.1	2833	98.5
38	5	0.2	2838	98.6
40	31	1.1	2869	99.7
42	2	0.1	2871	99.8
45	5	0.2	2876	100.0
50	1	0.0	2877	100.0

(表8)

問6：月経日数 Duration of Menstruation

Q6	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
2	3	0.1	3	0.1
3	94	2.3	97	2.3
4	357	8.6	454	10.9
5	1209	29.0	1663	39.9
6	970	23.3	2633	63.2
7	1306	31.3	3939	94.6
8	131	3.1	4070	97.7
9	15	0.4	4085	98.1
10	61	1.5	4146	99.5
11	1	0.0	4147	99.5
12	5	0.1	4152	99.7
14	4	0.1	4156	99.8
15	2	0.0	4158	99.8
16-	8	0.2	4166	100.0

Frequency Missing = 64

(表 9)

問 7 : 月経量 Amount of Menstrual Flow		Q7	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
	Small		442	10.6	442	10.6
	Normal		2964	71.0	3406	81.6
	Heavy		768	18.4	4174	100.0

Frequency Missing = 56

(表 1 0)

問 8 : 月経痛 The Degree of Dysmenorrhea		Q8	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
	ほとんどない	0	894	21.4	894	21.4
	あるが日常生活は普通	1	1917	45.9	2811	67.2
	鎮痛剤飲むと支障なし	2	1122	26.8	3933	94.1
	鎮痛剤飲んでも支障	3	170	4.1	4103	98.1
	動くのもつらい	4	78	1.9	4181	100.0

Frequency Missing = 49

(表 1 1)

問 9 : 月経痛のための鎮痛剤使用 Use of Analgesics		Q9	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
	Yes		1594	38.3	1594	38.3
	No		2573	61.7	4167	100.0

Frequency Missing = 63

(表 1 2)

「月経痛のために鎮痛剤を使用すると答えた 1594 例を対象」

問 9-1 : 1 回の月経で何日間 Days of Analgesic Use

Q9_1	Frequency	Percent
1 day	633	40.0
2 days	427	27.0
3 days	109	6.9
4 days	11	0.7
5 days or more than	14	0.9
at times	389	24.6

(表 1 3)

問 9-2 : 鎮痛剤の種類 Name of the Analgesic (Multiple Answer)

Q9_2	Frequency	Percent
Prescription Drugs	221	13.9
OTC Drugs	1389	87.1
Others	22	1.4

(表 1 4)

問 1 0 : この半年間で、生理痛のため休んだり仕事量を減らしたか

A rest due to dysmenorrhea		Q10	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
	Yes		1139	27.3	1139	27.3
	No		3036	72.7	4175	100.0

Frequency Missing = 55

(表 1 5)

「問 10 で「はい」と答えた 1139 例を対象」

問 1 0-1 : この半年間で休んだ日があったか Whole-day off

Q10_1	Frequency	Percent
No	582	51.5
Yes	548	48.5

(表16)

休んだ日数 Days of Absence (問10-1で「はい」と答えた 548例を対象)

Q10_1_1	Frequency	Percent
1	139	25.6
2	137	25.3
3	79	14.6
4	27	5.0
5	34	6.3
6	49	9.0
7	20	3.7
8	5	0.9
9	1	0.2
10	26	4.8
12	17	3.1
14	1	0.2
15	2	0.4
18	4	0.7
30	1	0.2

(表17)

問10-2: この半年間で、仕事を減らした日があったか Reduction of Work

Q10_2	Frequency	Percent
No	242	20.0
Yes	967	80.0

(表18)

減らした日数 Days of Reduction (問10-2で「はい」と答えた 967例を対象)

Q10_2_1	Frequency	Percent
1	153	16.2
2	141	14.9
3	143	15.1
4	52	5.5
5	84	8.9
6	161	17.0
7	25	2.6
8	14	1.5
10	86	9.1
12	47	5.0
14	1	0.1
15	9	1.0
18	11	1.2
20	10	1.1
24	2	0.2
30	4	0.4
40	1	0.1
42	1	0.1

(表19)

減らした程度 Degree of Reduction (問10-2で「はい」と答えた 967例を対象)

Q10_2_2	Frequency	Percent
普段の1/4程度の仕事	221	23.1
1/2	467	48.7
3/4	270	28.2

(表20)

問11: 生理痛のため、離職や転職 Change or Retirement of the Job

Q11	Frequency	Percent	Cumulative Frequency	Cumulative Percent
Yes	44	1.1	44	1.1
No	4144	98.9	4188	100.0

Frequency Missing = 42

(表 2 1)

問 1 2 : 生理痛のため医療機関への受診	Medical Consultation		Cumulative	Cumulative
Q12	Frequency	Percent	Frequency	Percent
Yes	509	12.2	509	12.2
No	3677	87.8	4186	100.0

Frequency Missing = 44

(表 2 2)

「問 1 2 で「はい」と答えた 509 例を対象」

問 1 2-1 : 診断 Diagnosis

	Q12_1_1	Frequency	Percent
	Dysfunctional	238	47.0
Multiple Answer	Endometriosis	136	26.7
	Adenomyosis Uteri	18	3.5
	Leiomyoma Uteri	88	17.3
	Ovarian Cyst	57	11.2
	Others	30	5.9

(表 2 3)

問 1 2-2 : 治療 Treatment (Multiple Answer)

	Q12_2_1	Frequency	Percent
	Surgical Therapy	83	16.3
	Medical Therapy	295	60.0
	Others	81	15.9

(表 2 4)

問 1 2-3 : 治療結果 Prognosis

	Q12_3	Frequency	Percent
	Easier	192	45.1
	No change	224	52.6
	Worse	10	2.3

(表 2 5)

問 1 3 : 周囲の理解 Understanding 1

	Q13	Frequency	Percent	Cumulative	Cumulative
				Frequency	Percent
	Very much	338	8.1	338	8.1
	if anything, Yes	2021	48.7	2359	56.8
	if anything, No	958	23.1	3317	79.9
	Hardly	836	20.1	4153	100.0

Frequency Missing = 77

(表 2 6)

問 1 4 : 男性・女性の理解 Understanding 2

	Q14	Frequency	Percent	Cumulative	Cumulative
				Frequency	Percent
	Men	129	3.1	129	3.1
	Women	2583	62.3	2712	65.4
	Men and Women	1437	34.6	4149	100.0

Frequency Missing = 81

年齢別集計 n=4230

数字：上段は頻度（人）、下段は各年齢グループ内の％（欠測例は含まず）

(表 2 7)
問 2：職業

Q2	AGE						Total
	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	
Agr. Fore and Fish.	1 0.20	0 0.00	3 0.40	4 0.54	7 0.96	8 1.04	23 0.55
Self employed	3 0.61	14 1.94	15 1.98	19 2.56	37 5.06	49 6.36	137 3.25
Office Work (full-time)	110 22.36	182 25.24	127 16.75	90 12.15	92 12.59	81 10.51	682 16.18
Office Work (part-time)	14 2.85	33 4.58	48 6.33	53 7.15	67 9.17	73 9.47	288 6.83
Engineer (full-time)	13 2.64	53 7.35	38 5.01	11 1.48	25 3.42	27 3.50	167 3.96
Engineer (part-time)	16 3.25	24 3.33	33 4.35	69 9.31	84 11.49	105 13.62	331 7.85
Profession	43 8.74	60 8.32	50 6.60	51 6.88	46 6.29	47 6.10	297 7.05
Medical	36 7.32	58 8.04	50 6.60	36 4.86	37 5.06	24 3.11	241 5.72
Manager	0 0.00	0 0.00	2 0.26	6 0.81	11 1.50	11 1.43	30 0.71
House wife	27 5.49	192 26.63	312 41.16	333 44.94	252 34.47	264 34.24	1380 32.75
Student or Unemployed	180 36.59	39 5.41	21 2.77	17 2.29	9 1.23	7 0.91	273 6.48
Other	49 9.96	66 9.15	59 7.78	52 7.02	64 8.76	75 9.73	365 8.66
Total	492	721	758	741	731	771	4214

Frequency Missing = 16

(表 2 8)

問 3 : 初経年齢

Q3	AGE					
	120-24	125-29	130-35	135-39	140-44	145-50
N	488	718	757	736	730	769
Mean	12.33	12.52	12.38	12.36	12.62	13.01
Std Dev	1.32	1.26	1.31	1.20	1.19	1.28
Median	12	12	12	12	12.5	13

(表 2 9)

問 4 : 出産回数

Q4	AGE						Total
	120-24	125-29	130-35	135-39	140-44	145-50	
None	463	512	347	176	114	72	1684
	93.91	70.91	45.72	23.78	15.53	9.35	39.92
1	26	145	169	147	104	96	687
	5.27	20.08	22.27	19.86	14.17	12.47	16.29
2	4	56	199	294	312	408	1273
	0.81	7.76	26.22	39.73	42.51	52.99	30.18
3	0	8	39	103	184	171	505
	0.00	1.11	5.14	13.92	25.07	22.21	11.97
4	0	1	4	15	17	20	57
	0.00	0.14	0.53	2.03	2.32	2.60	1.35
5-	0	0	1	5	3	3	12
	0.00	0.00	0.13	0.68	0.41	0.39	0.28
Total	493	722	759	740	734	770	4218
Frequency Missing = 12							

(表 3 0)

問 5 : 月経の順・不順 Q5

Q5	AGE						Total
	120-24	125-29	130-35	135-39	140-44	145-50	
Regular	303	462	544	584	597	467	2957
	61.71	64.44	71.96	79.03	82.12	60.89	70.46
Irregular	180	209	172	132	121	214	1028
	36.66	29.15	22.75	17.86	16.64	27.90	24.49
No Mens	8	46	40	23	9	86	212
	1.63	6.42	5.29	3.11	1.24	11.21	5.05
Total	491	717	756	739	727	767	4197
Frequency Missing = 33							

(表 3 1)

「月経が順調と答えた例を対象」

問 5 - 1 : 平均的周期 Q5_1

Q5_1	AGE					
	120-24	125-29	130-35	135-39	140-44	145-50
N	296	447	538	569	579	442
Mean	29.08	29.32	28.85	28.63	27.90	27.57
Std Dev	3.44	3.32	3.60	2.90	2.22	2.72
Median	29	29	28	28	28	28

(表 3 2)

問 6 : 月経日数

Q6	AGE						
	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50	
N	493	720	753	736	728	728	
Mean	6.26	6.19	5.99	6.07	5.72	5.70	
Std Dev	1.56	1.46	1.25	1.76	1.46	1.82	
Median	6	6	6	6	6	5	

(表 3 3)

問 7 : 月経量

Q7	AGE							Total
	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50		
Small	55	64	75	72	77	99	442	
	11.16	8.89	9.89	9.80	10.59	13.51	10.61	
Normal	343	514	562	543	513	483	2958	
	69.57	71.39	74.14	73.88	70.56	65.89	71.00	
Heavy	95	142	121	120	137	151	766	
	19.27	19.72	15.96	16.33	18.84	20.60	18.39	
Total	493	720	758	735	727	733	4166	
Frequency Missing = 64								

(表 3 4)

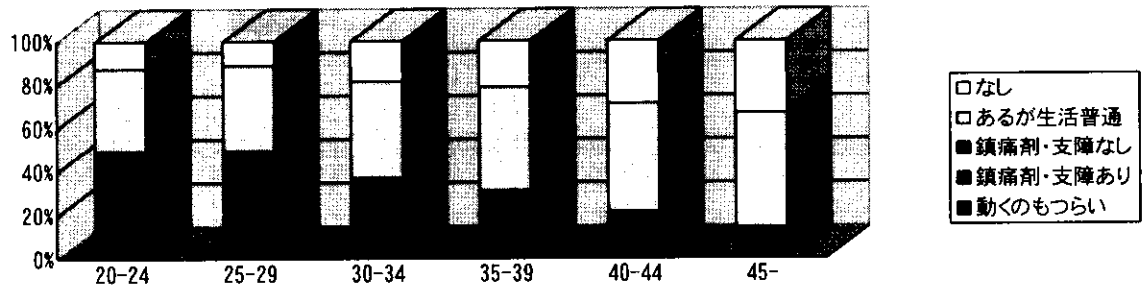
問 8 : 月経痛

Q8	AGE							Total
	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50		
0	62	80	141	157	209	244	893	
	12.58	11.10	18.60	21.30	28.75	33.11	21.40	
1	188	284	337	351	363	391	1914	
	38.13	39.39	44.46	47.63	49.93	53.05	45.87	
2	194	296	223	195	130	82	1120	
	39.35	41.05	29.42	26.46	17.88	11.13	26.84	
3	31	47	40	25	15	11	169	
	6.29	6.52	5.28	3.39	2.06	1.49	4.05	
4	18	14	17	9	10	9	77	
	3.65	1.94	2.24	1.22	1.38	1.22	1.85	
Total	493	721	758	737	727	737	4173	
Frequency Missing = 57								

(表 3 5)

Col Pct	AGE							Total
	20-24	25-29	30-35	35-39	40-44	45-50		
No or minimal (0-1)	250	364	478	508	572	635	2807	
	50.71	50.49	63.06	68.93	78.68	86.16	67.27	
Mild to severe (2-4)	243	357	280	229	155	102	1366	
	49.29	49.51	36.94	31.07	21.32	13.84	32.73	
Total	493	721	758	737	727	737	4173	
Frequency Missing = 57								

図 1.



(表 36)

年齢グループ別、出産回数別の月経痛有無
 (%:月経痛あり2~4の割合、ただし分母が10以上の場合)

Q4 出産回数	年齢グループ AGE											
	20-24		25-29		30-35		35-39		40-44		45-50	
	Q8A		Q8A		Q8A		Q8A		Q8A		Q8A	
	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes
	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N
0	232	231	230	282	185	162	105	71	87	27	60	12
	49.9%		55.1%		46.7%		40.3%		23.7%		16.7%	
1	14	12	85	60	113	56	100	47	75	29	77	19
	46.2%		41.4%		33.1%		32.0%		27.9%		19.8%	
2	4	.	41	15	140	59	203	91	237	75	333	75
			26.8%		29.6%		31.0%		24.0%		18.4%	
3	.	.	7	1	36	3	84	19	155	29	142	29
			7.7%		7.7%		18.4%		15.8%		17.0%	
4	.	.	1	.	2	2	12	3	15	2	18	2
							20.0%		11.8%		10.0%	
5-	1	.	3	2	3	.	3	.